

都市の深い深い森

都心に深い深い森のような週末住宅をつくる。

都市空間に静かに佇む黒いボリューム。
中に入ると、どこまで続くかわからない闇で覆われている。

その暗闇を、厚い天井を貫く細い糸のような無数の気泡入りガラス柱がかすかに照らしている。乱反射によって、時折、ちらちらと揺らめく繊細な光。そして、ガラス柱を伝って反響する外界の音。都市の喧噪もガラスというフィルターを通すと、なかなか良い。

ガラス柱は、外界の変化に繊細に呼応する。

眼下には、うっすらと視認できる木肌。床は、樹木の皮で敷き詰められている。足裏で感じる樹皮の肌理と凹凸。湿り気。そして、独特の匂い。

一般的に樹木は、木材として使うために樹皮を剥がれ、捨てられるが、ここでは、綺麗に剥がれた樹皮がフローリングのように地面に敷かれている。

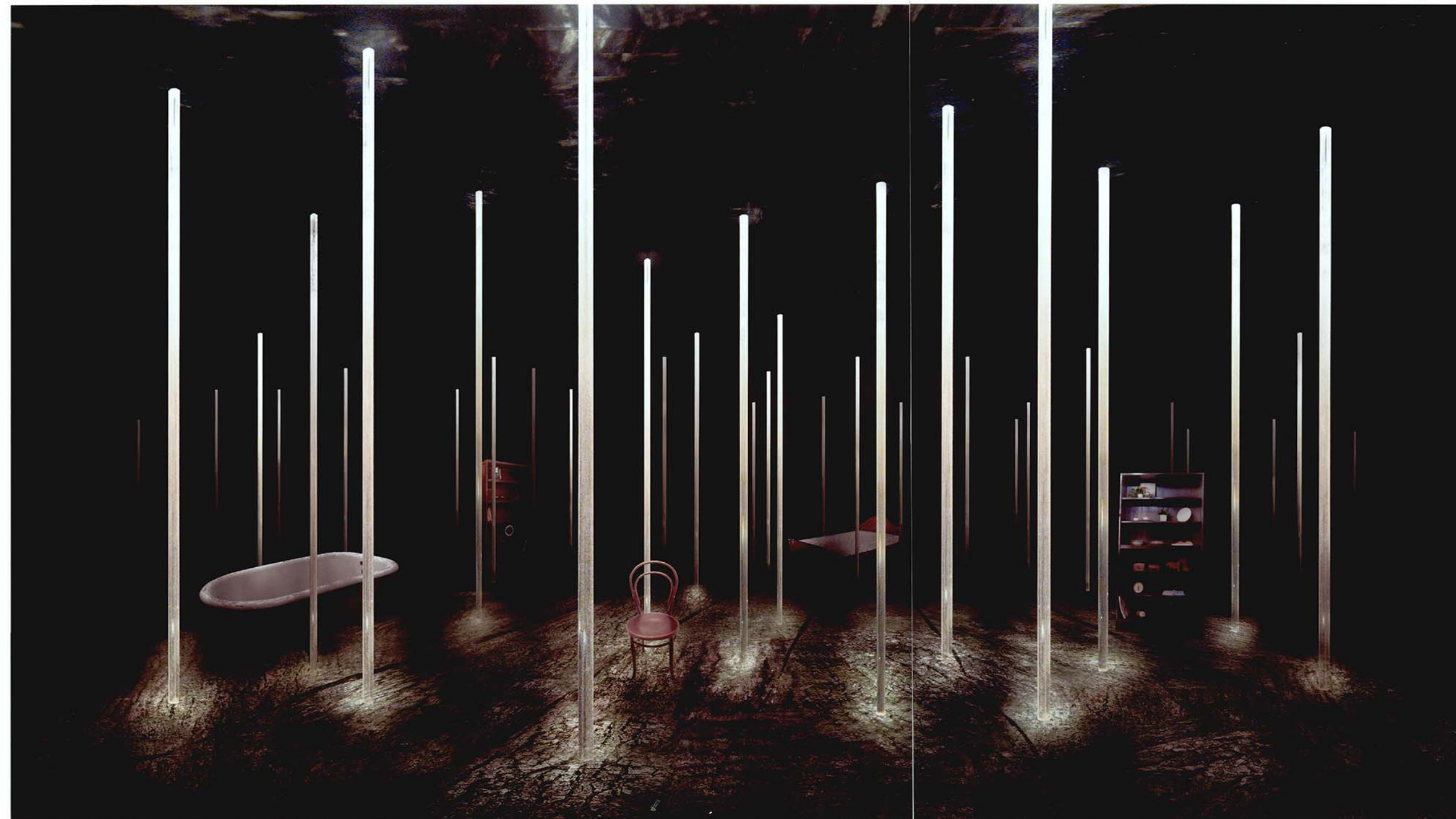
まるで深い森の中を歩いているようだ。
合理性を追求する都市環境とは正反対の世界。

しかし、悪くない。
極限まで抑圧された五感、逆に鋭く研ぎ澄まされ、木肌の豊かな質感と揺らめく優しい光と音に、心地よささえ感じている。

奥へ、奥へ。

無造作に置かれた一脚の椅子。
日が暮れるまで、あと数時間。
かすかな光をたよりに本を読もうか、それとも、軽く眠りにつこうか。

ここは、忙しい毎日を忘れられる自分だけの場所。
都市の深い深い森。

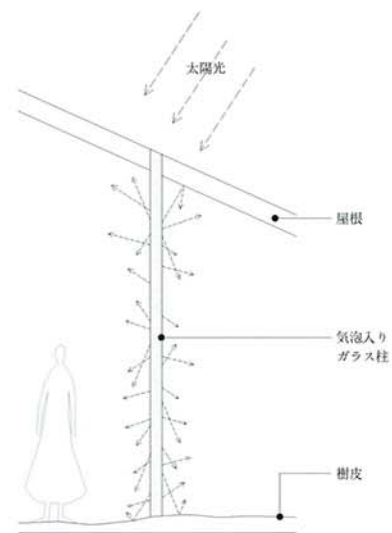


1. texture



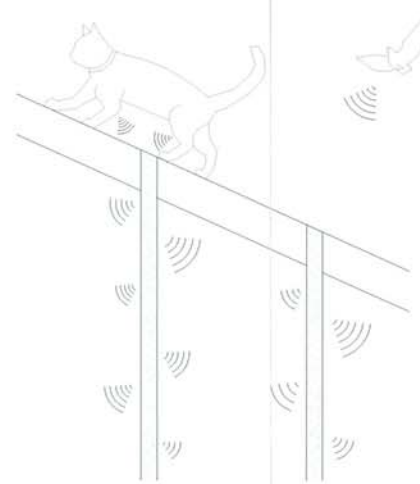
製材されるときに大量に破棄される樹皮を床に敷き詰める。
樹皮は、木の生きた証である。凹凸、傷、湿り気、柔らかさといった樹木の肌理と向き合うことのできる場所をつくる。

2. light



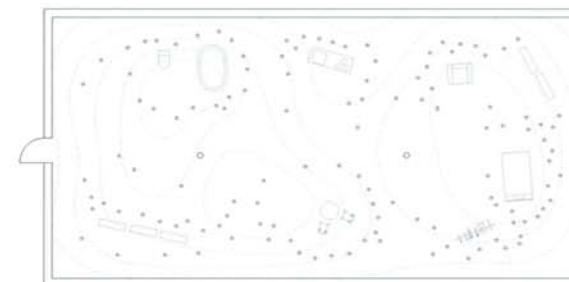
気泡入りガラスは、太陽光を乱反射させて淡く光り輝き、樹皮の地面を優しく照らす。陽の翳りに繊細に反応して光量を変化させ、ちらちらとゆらぐ表情を見せる。

3. sound



気泡入りガラスは、都市空間の喧噪を内部空間へ反響させる。
ぼやけた都市の音は、優しい環境音となる。

4. plan



樹皮の凹凸が、森(ワンルーム)に地形をつくる。そこに、生活の場所をちりばめる。ガラス柱は、機能の周辺を照らす。ぼんやりとした明かりをたよりに、ゆっくりと週末を過ごす。

